

基礎看護学

1 構成員

	平成17年3月31日現在
教授	4人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	2人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	15人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	25人

2 教官の異動状況

松島 肇（教授）	（H8. 4. 1～現職）
石津みゑ子（教授）	（H11. 4. 1～現職）
宮本 愛（教授）	（H13. 4. 1～現職）
渡邊 泰秀（教授）	（H14. 6. 1～現職）
小林 貴子（助教授）	（H11. 4. 1～現職）
木山 幹恵（助手）	（H14. 4. 1～現職）
西森 咲江（助手）	（H15. 4. 1～現職）
岩ヶ谷 愛（教務職員）	（H16. 4. 1～H16. 12. 31）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成16年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	7編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	11編（11編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）

そのインパクトファクターの合計	0
-----------------	---

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 西森咲恵, 木山幹恵, 小林貴子 (2004) 基礎看護技術における学生の紙おむつ装着体験の効果－基礎看護学実習前の課題記録の分析と実習後のアンケート調査結果の分析から－, 日本看護学教育学会誌, 第14回学術集会講演集, 150.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 小平京子, 小林貴子, 小長谷百絵, 小田和美, 伊藤ひろみ, 土屋陽子, 横山悦子他 (2005) 「とっかかり/手がかり言動とその直感的解釈」の検討, 看護の教育的機能向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金研究成果報告書, 16-30.
2. 小長谷百絵, 小田和美, 小平京子, 小林貴子, 伊藤ひろみ, 土屋陽子, 横山悦子他 (2005) 「とっかかり/手がかり言動とその直感的解釈」抽出事例編, 看護の教育的機能向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金研究成果報告書, 31-39.
3. 下村裕子, 河口てる子, 林優子, 井上智恵, 安酸史子, 大池美也子, 小林貴子他 (2005) 生活者に関する知識・技術-看護が捉える「生活者」の視点-, 看護の教育的機能向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化 平成13年度～平成16年度科学技術研究費補助金研究成果報告書, 40-52.
4. 岡美智代, 近藤ふさえ, 滝口成美, 伊波早苗, 河口てる子, 下村裕子, 小林貴子他 (2005) 患者教育方法に関する知識・技術 (B3), 看護の教育的機能向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金研究成果報告書, 53-79.
5. 大池美也子, 安酸史子, 太田美帆, 東めぐみ, 山本千恵子, 河口てる子, 小林貴子他 (2005) 患者教育のための看護実践モデルにおけるProfessional Learning Climate とその要素に関する検討, 看護の教育的機能向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金研究成果報告書, 80-105.
6. 藤田委由, 天野宏紀, 松島 肇, 山崎裕康 (2005) 教育研究機関における労働安全衛生の管理に関する研究, 平成15年度～17年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「環境安全学の創成と教育プログラムの開発」(領域代表者高月 紘) 平成16年度研究成果報告書: 8-13.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇 (2004) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 感染性廃棄物の処理処分の体系と方法 (改訂版), 日本医師会総合政策研究機構: 1-55.
2. 松島 肇 (2004) オリエンテーション 平成16年度第2回日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座第1回講習会資料, 日本医師会: 5-10.

3. 松島 肇 (2004) 第2教科感染性廃棄物の処理処分の体系と方法, 平成16年度第2回日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座第1回講習会資料, 日本医師会: 29-48.
4. 松島 肇, 平井栄利子 (2004) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 診療所などにおける感染性廃棄物処理管理マニュアル (改訂版), 日本医師会総合政策研究機構: 1-68.
5. 松島 肇監修 (2004) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 副読本感染性廃棄物処理業者選択のポイント (改訂版), 日本医師会総合政策研究機構: 1-75.
6. 松島 肇 (2004) 第6教科診療所などにおける感染性廃棄物処理管理マニュアル, 平成16年度第2回日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座第2回講習会資料, 日本医師会: 41-64.
7. 松島 肇, 宮澤雄一 (2004) 感染性廃棄物処理の現状と問題点, 安全工学 43(6): 420-426.
8. 松島 肇 (2005) 感染性廃棄物の新処理技術を中心にして, 第12回医療廃棄物研修会 (- 医療廃棄物をとりまく環境と求められる適正処理 -): 35-41.
9. 松島 肇, 伊藤機一編集 (2005) 新改訂医療廃棄物の適正処理マニュアル- 感染性廃棄物を中心に -, 臨床病理レビュー特集133: 1-184.
10. 松島 肇 (2005) 感染性廃棄物の適正処理, 臨床病理レビュー特集 133: 8-15.
11. 松島 肇, 宮澤雄一, 伊藤機一 (2005) 感染性廃棄物処理概論, 臨床病理レビュー特集 133: 116-123.

インパクトファクターの小計 [0]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇 (2004) 序論, 廃棄物処理・リサイクル施設におけるISO14001内部監査員養成講座テキスト, 財団法人日本環境衛生センター: 1-23.

4 特許等の出願状況

	平成16年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成16年度
(1) 文部科学省科学研究費	4件 (940万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

石津みゑ子 (代表者) 基盤研究 (C) (2) 「在宅高齢者の主観的睡眠感と生活リズムに関する研

究」70万円（継続）

木山 幹恵（代表者）若手研究（B）「AHPを用いた臨床ナースの論理的意思決定プロセスに関する研究」80万円（継続）

小林 貴子（分担者）基盤研究（B）（1）「看護の教育的機能向上のための「看護実践モデル」の検証および患者教育の体系化に関する研究」代表者 日本赤十字看護大学看護学部教授 河口てる子 240万円（継続）

松島 肇（分担者）特定領域研究（環境安全学の創成と教育プログラムの開発）「教育研究機関における労働安全衛生の管理に関する研究」代表者 島根大学医学部教授 藤田委由 550万円（継続）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	5件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

1. Mikie KIYAMA, Mieko ISHIZU, Hiroe YONEZAWA, Hiroyuki TAJIMA : A Study of Ethical Decision-making Process on Japanese Nurses, 2nd Asia Pacific Nursing Congress, Nov. 2004, Sydney Australia.

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

小林貴子 日本糖尿病教育・看護学会 第9回学術集会 一般発表 愛媛
松島 肇 第6回日本看護医療学会学術集会 学会長特別講演 京都

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

小林貴子 日本糖尿病教育・看護学会 評議員 研究研修推進委員会委員
松島 肇 医療廃棄物研究会 副会長兼理事
松島 肇 日本医用マススペクトル学会 評議員
松島 肇 大学等環境安全協議会 評議員
松島 肇 日本医用マススペクトル学会東海支部 幹事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成16年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

1. 河口てる子（日本赤十字看護大学看護学部）他「看護の教育向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化に関する研究
2. 藤田委由（島根大学医学部）他「教育研究機関における労働安全衛生の管理に関する研究」

10 産学共同研究

	平成16年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 教育研究機関における労働安全衛生の管理に関する研究

本研究は、教育研究機関の学生及び教職員の健康と安全の確保、快適な作業環境の形成、健康増進をはかることを目的として、教育研究機関における労働安全衛生の管理状況を調査した。教育研究機関における作業環境管理、作業管理、健康管理の状況と問題点を一部明らかにし、労働安全衛生の効果的な管理方法を検討した。

（松島 肇，藤田委由，天野宏紀，山崎裕康）